

学力向上のための授業改善に関する調査・実践研究

学習指導部

平成10年度から継続して、「生きる力」としての学力を、情意面の能力、技能面の能力、認知面の能力の3つが総合的に関連し合って構成されているものにとらえ、「学力向上のための授業改善に関する調査・実践研究」に取り組んできた。

本年度の「授業改善を図る実践研究（Ⅰ）」では、平成7年度と平成9年度に実施した「福島県の児童生徒の学力到達状況に関する研究」の結果を踏まえ、課題となっている領域を取り上げ、中学校2年国語・数学・英語で効果的な指導方法を探るための調査・実践研究を行ってきた。

また、「授業改善を図る調査・実践研究（Ⅱ）」では、各教科の持つ特性を考慮しながら思考力、判断力、表現力などを育てるための授業改善に向けての調査・実践研究を行ってきた。本年度の研究教科は小学校生活科、高等学校保健体育科、高等学校芸術科（美術）である。

I 研究の概要

1 研究の趣旨

中央教育審議会答申は、「生きる力」について、「自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康や体力」を重要な要素としてあげている。

新学習指導要領でもこれらを受け、「生きる力」をはぐくむことを目指し、自ら学び、自ら考える力の育成を図るとともに基礎的・基本的な内容の確かな定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めることを求めている。

学習指導部では、平成10年度からの継続研究として、「学力向上のための授業改善に関する調査・実践研究」の主題の下に研究を進めてきた。

教師は、授業を通して児童生徒に確かな学力を身に付けさせる責任がある。しかし、その「学力」は、単なる知識の量にとらえるのではなく、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を身に付けているかどうかによってとらえるべきである。そして、「知識を教え込む授業」から「自ら学び、自ら考え、

問題を見付け、解決していくような児童生徒主体の授業」への転換を考えて行かなければならない。

こうした考えを基に、学習指導部では、授業改善を図るため、「生きる力」としての学力は、「～しようとする」のような情意面の能力、「～できる」のような技能面の能力、「～分かる」のような認知面の能力の3つが総合的に関連し合って構成されているものにとらえ、研究を進めてきた。

平成7年度からの学力到達度調査事業にかかわって、「授業改善を図る実践研究（Ⅰ）」として昨年度は、小学校5年国語、小学校5年算数、中学校3年英語について実践研究を行い、今年度は、中学校2年国語・数学・英語について授業改善を図るべく、研究実践に取り組んできた。

「授業改善を図る調査・実践研究（Ⅱ）」では、小学校生活科、高等学校保健体育科、高等学校芸術科（美術）について、各教科の特性を生かし、情意面・技能面・認知面のそれぞれの能力をのばし、児童生徒の「生きる力」をはぐくむための授業改善に取り組んできた。

2 研究・実践の内容

(1) 「授業改善を図る実践研究（Ⅰ）」

平成7年度と平成9年度に実施した「教研式・全